



しずく 通信

一年をしまう号

(はるまき)

大掃除で換気扇を外したら、思っていた三倍よごれていて、年越しそばを作る前に力尽きちゃいました。

この冬の号は、少しでも欲ばって、去年一年の会を全部並べてみました。十二回ぶんを一枚の表にすると、同じ一年なのに、ずいぶん遠くまで行ったんだなあと思います。

去年は、お休みに入った人がいて、離れた人がいて、戻ってきた人がいて、新しく来た人が二人いました。いまは十二人です。十一月から加わったタカノツメには、さっそく寄稿をお願いしました。

もくじ

- 一年をしまう号 (はるまき)
- 二〇二三年の十二回
- 感情浴会の記録 第42回～第44回
- 第3回 しずく大賞の結果
- タカノツメのこと・寄稿 最終回の前の週 (タカノツメ)
- 寄稿 年の暮れの本棚 (灯)
- 冬の選書
- 次の会

二〇二三年の十二回

回	月	テーマ	作品
第33回	一月	元気を出したい	『ぼっち・ざ・ろっく!』 (テレビアニメ)
第34回	二月	切なくなりたい	『silent』 (テレビドラマ)
第35回	三月	驚きたい	『十三機兵防衛圏』 (ゲーム)
第36回	四月	やり直したくなりた い	『ブラッシュアップライフ』 (テレビドラマ)
第37回	五月	ほどけたい	宇多田ヒカル『BADモード』
第38回	六月	寂しさに浸りたい	夏目漱石『夢十夜』 (朗読で聴く)
第39回	七月	おなかを空かせたい	『南極料理人』 (映画)
第40回	八月	熱くなりたい	『THE FIRST SLAM DUNK』 (アニメ映画)
第41回	九月	遠くへ行きたい	『ゼルダの伝説 ティアーズ オブ ザ キングダム』
第42回	十月	ひとりを味わいたい	星野源『いのちの車窓から』 (エッセイ)

回	月	テーマ	作品
第43回	十一月	ふるえたい	藤本タツキ『ルックバック』（漫画）
回	月		
第44回	十二月	誰かに会いたくなり	有川ひろ『旅猫リポート』（小説）
回	月	たい	

絵本の回だけが、一度もありませんでした。今年は、きっとあります。

感情浴会の記録

第42回（十月） 進行は灯、記録はめじろ。九か月ぶりに戻ってきためじろの最初の会で、灯が最初に、おかえりなさい、と言いました。灯は通勤の電車で読んで、窓の外と文章の中の時間が重なったそうです。

第43回（十一月） 進行は草餅、記録はこはぜ。この夜がタカノツメの初めての会でした。草餅は、雨の帰り道の見開きで一度本を閉じた、と。後半に起きることは、誰も細かく話しませんでした。

第44回（十二月） 進行は灯、記録はタカノツメ。青年が愛猫を車に乗せて、昔の友人を一人ずつ訪ねていく話です。記録は、結論から言う、小生は猫に負けた、という一行で始まっています。

第3回 しずく大賞の結果

取りまとめのロクから。

部門	大賞	票
小説	『水車小屋のネネ』 津村記久子	11票中5票
漫画	『カグラバチ』 外薮健	10票中4票
アニメ	『葬送のフリーレン』（テレビアニメ）	12票中8票
映画	『怪物』 是枝裕和監督	10票中5票
ドラマ	『ブラッシュアップライフ』（バカリズム脚本）	11票中5票
音楽	スピッツ『ひみつスタジオ』	11票中4票
ゲーム	『ゼルダの伝説 ティアーズ オブ ザ キングダム』	8票中5票

ドラマ部門の選評は、加わって一か月のタカノツメが書いています。

タカノツメのこと

十一月から加わったタカノツメは、ドラマの記録を担当してくれます。国内の連続ドラマから海外の作品まで観る人で、辛いものと脚本の話になると長くなる、と最初のあいさつで自分から言っていました。

寄稿 最終回の前の週

(タカノツメ)

結論から言う。連続ドラマでいちばん旨いのは、最終回ではない。その前の週である。

最終回は、答え合わせの回である。散らばったものが拾われ、結ばれ、閉じられる。もちろん、それはそれで旨い。だが、小生がしびれるのは、閉じる直前の、いちばん散らかっている回なのだ。

前の週には、脚本家が三か月ぶんの火力を全部入れてくる。主人公はいちばん追いつめられ、味方は離れ、隠されていたことが半分だけ明かされる。残りの半分は、来週。ここで放送が終わる。来週まで待てない。この「待てない」こそが、連続ドラマという食べものの、あとから効いてくる辛さなのである。

たとえば『アンナチュラル』。一話ごとに事件が閉じる作りでありながら、最後の二話で、それまでの話の下に一本、太い線が通っていたことが分かる。前の週を観終えた夜、小生は台所で水を二杯飲んだ。

配信で一気に観られる時代になった。便利である。だが、小生は今も、最終回の前の週だけは、一週間待つことにしている。待つ一週間も、脚本のうちなのだ。

寄稿 年の暮れの本棚

(灯)

十二月三十日の夕方。本棚の前に、少しだけ座っています。

年の暮れに、一年ぶんの本を棚に戻すのが、毎年決まりです。読み終えたまま机の上に積んであった本を、一冊ずつ手に取って、どこに置くか決める。それだけのことに、たぶん二時間くらいかかります。

今年いちばん長く手に持っていたのは、津村記久子の『水車小屋のネネ』でした。十八歳の姉と八歳の妹が家を出て、水車小屋のある町で暮らしはじめる。そこから四十年。分厚い本なので、読み終えるまでに春から夏の終わりまでかかりました。棚に戻すとき、少しだけ重さを確かめてから置きました。

十月の会の『いのちの車窓から』は、窓ぎわの段に。十二月の『旅猫レポート』は、そのすぐ隣に置きました。車の窓と、電車の窓。並べておくと、たぶん、どちらの窓からも同じ夕方の光が見えます。

全部を戻し終えると、外はもう暗くなっていました。ほうじ茶をいれて、新しい年の最初の一冊を、まだ決めないまま、湯気だけ眺めています。

冬の選書

『エルピス—希望、あるいは災い—』（テレビドラマ・渡辺あや脚本）
選んだ人：タカノツメ。報道番組の作り手たちが、ある事件の真相を追う話である。脚本が、最後まで甘くならない。ぴりっと来る。

『BLUE GIANT』立川譲監督（アニメ映画）

選んだ人：凧。ジャズのサクソで世界一を目指す青年の話で、最後の演奏の場面は、何回観ても、自分の体まで音に合わせて動いてしまうんです。

『てぶくろ』ウクライナ民話・エウゲーニー・M・ラチョフ絵（絵本）

選んだ人：めじろ。森に落ちた片方のでぶくろに、動物がつぎつぎ入っていく絵本です。読み聞かせのとき、動物がふえるたびに、子どもがくすくす笑います。

『ランチ酒』原田ひ香（小説）

選んだ人：ぬか。夜に働く女性が、仕事明けの昼に、ひとりでごはんとお酒をいただく話です。ひとくち目の描き方で、白いごはんが欲しくなります。

次の会

- 第45回（一月） テーマ「考え込みたい」。宮崎駿監督の『君たちはどう生きるか』。去年の夏から上映が続いている映画です。それぞれ観てきてから話します。進行はロク、記録は草餅。
- 第46回（二月） テーマ「救われたい」。大賞のアニメ部門に選ばれた『葬送のフリーレン』。進行は凧、記録は栞。

しずく通信 第15号 2024年1月 編集：はるまき

しずく通信 第15号

2024年1月 発行

編集 はるまき

発行 一滴舎

この冊子は会員向けに発行したものです。